

# 初めてのハワイ旅行

## 一日目、日本時間 12 月 26 日。

年内の仕事を 12 月 25 日にすべて終わらせて、2023 年 12 月 26 日から 2024 年 1 月 1 日まで、初めてハワイを訪れた。ハワイは、一度は行ってみたいもよいかなどは思っていたところだ。

私は、これまで、訪れた国は、15 か国となった。アメリカは、4 度目になる。台湾、イギリス、フランス、イタリア、スイスが 2 度である。

久しぶりの海外ということで、余裕をもって、妻と二人で成田に向かう。私は、ナップザックとスポーツバックだけ。それも中身は、スカスカで機内持ち込みである。妻は、小さめのスーツケースとナップザック、それに、海外の飲料事情が良くない（今回は、物価高）ということで、ペットボトルを何本かスポーツバックに入れている。それを私が持たされた。

成田に 1 回乗り換えて、約 2 時間で着き、遅い昼食をとる。成田は、コロナ明けと年末ということで、混んでいた。

出国手続きは、簡単にできた。今は、パスポートをスキャンして、顔認証するだけ。パスポートにスタンプは押さず、頼まないで押してくれない。

ZIPAIR 機で成田から、19 時 5 分に離陸。外は夕闇。眠りながらホノルルに向かう。時間をさかのぼっていく。日付変更線をまたぐので、到着は、同じ 12 月 26 日の朝の 6 時半。予定より 20 分ほど早く着いた。



見えるのはワイキキの街

## 厳しいアメリカのセキュリティチェック

私たちは、飛行機を乗り継いで、9 時 50 分発でホノルル空港からハワイ島ヒロ空港に向かう。アメリカ国内の移動なので、厳しいチェックはないと思っていたが、厳しかった。9.11 テロ以降アメリカは、飛行機のチェックを厳しくしているとのこと。まず、靴を脱ぎ、手荷物を全部流し、X 線チェックを受ける。この X 線チェックは両手を挙げなければならない。

失敗だったのは、乗り継ぎだったため、前の機内に持ち込んだバッグに入れた水や飲み物をそのまま持ち込んだため、没収されてしまった。皆が皆、預ける荷物に入れ替えていなかったのだ。

今回の旅は、私たち夫婦、息子夫婦、その息子の妻の両親、合計 6 人の旅である。そして、今回の旅は、旅行会社を通さず、すべて、息子の妻が手配段取りを取ったものだ。大したものである。

ホノルル空港から飛び立った時は快晴。まさに南国という感じ。下に見えるのは、ワイキキの街。そして、ダイヤモンドヘッド。上から見ると中が窪んでいてカルデラになっている。初めての認識。ヒロ空港までは 50 分の空の旅である。

ヒロ空港で予約した 6 人乗りのレンタカーに乗り込む。まずは、空港から車で 10 分程度のホテルに向かう。冬だが、24 度位はあるようだが、湿度がないようで過ごしやすい。

## ハワイは火山の島

荷物をホテルに預けてキラウエア火山に出発。

その前にスーパーに寄って買い物。ベンチがあったので、そこで昼食。中華やレモンケーキなどを食べた。

ビジターセンターに寄る。キラウエア火山は、ハワイ島の南東部に位置する 1250 メートルの活火山。今は噴

火していないが、広範囲に、溶岩流が固まったクレーターがあり、湯煙（スチームベント）が上がっている。一番新しい噴火は、2018年5月。その後8月にかけてカポホ湾を埋め尽くすほどの被害が発生したとのこと。

ハワイの固有種であるオヒアの木や熱帯植物が生い茂る道を散歩。溶岩の上にも草木は生えている。

その後、移動してクレーターの見える展望台へ。そこから見ると、百メートル位の断崖になっていて、クレーターが大きく広がっている。下の方は、樹は一本もまだ生えていない。上から下を見ると、小さく人が動いている。クレーターに下りていけるようだ。

帰り道は、溶岩が流れてきて固まった中を走る。

その中で、日本からの長い一日だったので、車で眠気に勝てず眠った。運転手は、息子夫婦が代わって運転。左ハンドルと右側通行に慣れたようだ。

夕食は予約していたレストランへ。「パイナップルズ」というオープンレストランで、混んでいて、待ちの客が大勢いた。私たちは予約していたのですぐに席へ案内される。そのレストランは、3方がオープン、ガラス窓も壁もない。1年中暖かいからなのか。

マグロのサラダ、干し肉のプレートなどを食す。意外とおいしい。採れたての野菜、魚を使っているとのこと。それからパイナップルポウ、中身をくり抜いたパイナップルの器に飲み物が入っているのを息子たちは注文していた。

昼間は、陽ざしが強かったが、夕食を食べていた頃、雨が少し降ったようだ。

ホテルに着いたのは午後9時過ぎ。ヒロハワイアンホテル。このホテルのエントランスにも、扉も壁もない。ロビーとフロントが外気に接している。

風や雨が吹き込まないのか心配になるが、そういうことがないから、一年中開放しているのだろう。3家族別々で部屋に入る。中は、ツーベッドで広く天井も高い。大きな窓を開けるとすぐそこが穏やかな海である。ヤシの木も生えていて南国情緒たっぷり。疲れていたのも、シャワーを浴びて、ぐっすりであった。



煙が上がるキラウエア火山



ハワイの火の神ペレ

## 二日目の現地 27日。

8時半にホテルをレンタカーで出発。快晴。陽ざしが強い。ヒロファーマーズマーケットで朝食を買う。ヒロ湾沿いにあり、公園もあったので、そこのベンチで食べる。地元の農家やクラフト店、お花屋さん、惣菜屋さんが出店。フルーツの甘い香りが漂っている。日本人も店を出し、おにぎりなどを売っていた。

## ハワイは野鳥の楽園

近くには、カメハメハ大王像がある。食事をしていると鳥のさえずりが絶え間なく聞こえる。ハワイは、野鳥の楽園。身近に野鳥が寄ってくる。固有種では、赤ハワイミツスイ、カーディナルなど。

ファーマーズマーケットからすぐのライマン博物館を訪問。陽ざしが強くなってきた。この博物館では、ハワイの自然の歴史と文化が展示されている。ハワイの先住民の遺物なども多くあった。ハワイの火の神ペレの写真は、この博物館で撮った。

落ち着いたところで、アカカの滝に向かう。ヒロから海岸線沿いに北東へ。ホノムという小さな町から山側へ。滝を見るのに有料だった。そして予約制。州立公園で、ハワイの神話や歌に登場する美しい滝だということであ

る。

### 至る所にみられるバナヤンツリー 無数に垂れているのは根

駐車場から舗装されたハイキングコースに行く。結構な高低差があり、30分で1周する位。滝の落差は、約134m、手前に樹があって下まで見えない。ハイキングコースは、野生のラン、竹林、シダの生い茂る緑の濃い熱帯雨林である。枝から地面まで伸びる根を垂らしたハワイの巨木バナヤンツリーも生えている。

アカカの滝からホノムに戻り、そのパン屋さんへ。ちょっと寄り道。

昼は、スーパーに寄り、そこに並んでいるチャイニーズレストランで食事。物価は、概ね日本の2から3倍。円安もあり出費がかさむ。ただ、ビールや牛肉、ハワイ産の果物は安いと感じた。物価は高いが、最低賃金は、1600円位で時給は2000円以上ようだ。日本の最低賃金が東京でやっと1113円。ハワイは、物価も高いが賃金も上がっている。日本は、30年間も実質賃金が上がっていない。

星空を見るためにマウケア山に移動。マウナケアとは白い山という意味だそう。標高は、4205メートル。富士山より高い。空気が澄んでいるので、山頂には、11か国の天文台がある。

山頂へは、4WDでなければいけない。私たちは、ビジターセンターであるオニズカビジターセンターまで行く。標高は、2820メートル。夜は、気温が下がるので、防寒着を着て、夜になるのを待つ。日本からは防寒着を着て出たので、それが役に立った。どんどん車が下から上がってくる。駐車場は満杯だ。

私たちは、頂上まで行かずに、ビジターセンター向かいにある小山へ上る。午後6時くらいが日没。あたりは徐々に真っ暗になる。暗くなった午後7時に、登り始める。陽が沈む速くは、まだ、少し赤くなっている。

ここは、標高が高いので、結構心臓に負担がかかるのでゆっくり上る。私たちは、中腹で星を見る。息子夫婦と息子の妻のお父さんは、一緒に上る。元気だ。

思ったより、星が見えない。やはり頂上に行かないと満点の星にはならないのか。しかし、満月の月が輝いていた。星が思うように見えなかったのは満月のせいだったのかもしれない。

寒いので、下山する。



バナヤンツリー

### 食事は、スーパーで買ってホテルで

帰りは、下山して、KTAスーパーで買い物。ビール、総菜、サンドイッチ、サラダなどを買い込んでホテルへ。急遽、思いついて、ホテルのロビーで食べることになった。一応フロントにお伺いを立てOKをもらった。

ちょうどよくテーブルと椅子があり、そして、何よりもオープンなロビーなのが良かった。今日一日はタイトなスケジュールであったが、最後の食事をみんなですべて、落ち着いた。

### 三日目、現地28日。

今日は移動日なので、7時半過ぎには、ホテルを出て空港に向かう。空港についてレンタカーを返し、搭乗手続きへ。やはり、手続き、セキュリティチェックは、ホノルル空港と同じく、厳しかった。

快晴。空から白い雲と下の海が見える。穏やかなようだ。

ホノルル空港に着き、ウーバーで車を呼ぶ。スマホで息子の妻が呼ぶ。彼女は、英語が堪能だ。すぐに来る。

## パールハーバー 戦争の記憶を今も

向かうのは、空港から、車で20分くらいのパールハーバー。

ビジターセンターに着いた。まず、荷物を預ける。中には持って入れない。大きいので10ドル、小さいので7ドルだ。高い。

USS アリゾナ記念館は無料。ただし、予約が必要で、その時に手数料が取られる。また、戦艦アリゾナ号の真上に建てられた慰霊施設は、船で行かねばならない。これが予約が取れなかった。並んでも時間がかかるので、止めにした。この施設は、ビジターセンターから望める。戦艦アリゾナ号は、日本の真珠湾攻撃で沈められ、12メートルの海底に今でも眠っている。

ビジターセンター内にも展示、ビデオ上映がされている。そこを見学。真珠湾攻撃の一部始終が、資料展示とビデオで再現されている。

1941年12月7日、ハワイは日曜日の朝、日本が空母の戦闘機と潜水艦で奇襲攻撃をした。第二次世界大戦の始まりである。アメリカ側は、戦艦8隻のうち3隻が沈み、1隻が横転、軽巡洋艦3隻、駆逐艦3隻、その他の艦艇が沈没あるいは大破し、300機を超える飛行機が破壊あるいは損傷、死者・行方不明者は2400名以上、負傷者1300名以上を出している。その悲劇を展示している。

日本側の損失は、飛行機29機と特殊潜航艇5隻、戦死者は64名だった。日本側は、奇襲に成功し、一時的にアメリカの戦力をそいだが、戦力を次第に回復したアメリカにその後、敗戦を繰り返し、果ては、本土空襲、沖縄での地上戦、広島と長崎に原爆を投下され、日本は壊滅状態になりどん底に落とされた。戦争ほど悲惨なものはない。



**パールハーバー、向こうに見える白い横長の建物は、戦艦アリゾナ号の上に建てられた慰霊施設**

パールハーバーは、今でもアメリカ海軍の拠点基地となっている。

パールハーバーを後にし、ウーバータクシーでワイキキのホテルに向かう。午後になっていたので、チェックインできる。今回は、息子夫婦が分かれて、3人で二部屋に泊まる。私たちの方は、30階で眺めがよい。このホテルは31階建て。屋上にプールがある。部屋は、キッチンがあり食器、鍋、電気調理器もそろっている。ワイキキのほぼ中央にあるパシフィックモナークというコンドミニウムだ。

さて、ハワイのトイレ事情だが、今回は、1回もウオシュレットに当たらなかった。普及していないのだろう。日本から持ち込めば売れないかなと思った次第だ。

夕方になり、ワイキキの浜辺を散策。年末ともあってにぎわっている。年中そうなのかもしれないが、ここを歩いていると、ハワイに来た実感はある。

昼間にスーパーで買った食材で夕食。

## 四日目、現地29日。

今日は、レンタカーを2台借りて、3人ずつ分乗して、ワイキキから北上する。運転手は、息子とその妻。

目指すは、カイルア・ビーチ。海岸線に出ると、風がある、少し冷たい。島特有の海岸線を走る。

私も海外で乗れる免許書を持ってきたが、運転は、息子夫婦に譲ることにした。ナビはスマホでやっていて、便利だ。私が、海外で運転していた頃は、ナビ派なく、もっぱら地図が頼りだった。

## ハワイのビーチ 一年中泳いでる

ビーチに着いた。砂が細かく、白い。息子たちとその妻のお父さんが海に入る。気温が 23 度で少し寒いようだが、他の人たちも入っている。波があるが、緑がかったきれいな海の色だ。私たちは、砂浜の木陰で休んで、海に入っているのを眺めている。



カイルア・ビーチ

浜辺には、無料のシャワー、着替える場所、トイレもある。ハワイには、そんなビーチがいっぱいあるようだ。

ビーチで遊んだ後、近くのパンケーキ屋で、ハンバーグなどテイクアウトして、近くの公園へ。ベンチがあり、そこで食事。周りは、住宅街である。

## クアロア・ランチ 確かに古代の雰囲気はあり

続いて向かったのが、クアロア・ランチ。昔は、聖なる土地ということで王族しか立ち入れなかったという。ハリウッド映画や

人気 TV 番組、コマーシャルなどのロケ地としてしばしば使用されているという。私たちは、映画ロケ地ツアーに参加する。値段は、約 52 ドル。約 8000 円位。おんぼろな、大型バスに 20 人位が乗って、ロケ地と称される場所を 1 時間位で移動する。ジュラシックパークなどのロケ地として日本でも知られているとのこと。

今は、一帯が牧場や畑になっているようだ。ジュラシックパークの看板で記念撮影。

急いで、ワイキキに戻る。レンタカーを返して、しばし、ワイキキを散策。今日は、イタリアンのレストランを予約。アメリカやイギリスでは、レストランは、イタリアンかチャイニーズレストランがおすすめ。日本人の口に合うし、比較的値段は安めである。

ここも予約していたので、スムーズに入れる。ピザや、パスタなどを頼んで、一人 5000 円位だった。

レストランなどの費用は、毎回、3 世帯で割ってもらって、支払っている。すべてカード払い。アメリカはカード社会と言われているが、まさに、そのようだ。ほとんど、現金を使わない。現金を使ったのが、ファーマーズマーケットくらいである。



クアロア・ランチで記念撮影

## 五日目、現地 30 日。

朝早く、7 時過ぎに集合して、ダイヤモンドヘッドへ。行きは、タクシーを頼んだ。トンネルをくぐり、ダイヤモンドヘッド登山の入口へ。ここもすべて予約制だ。だから、いきなり、行っても入れない。日本の観光施設と全く違う。

## ダイヤモンドヘッド頂上からのワイキキ 見晴らしよし

一応整備された道を、何度も曲がりくねって、そして階段を上がっていく。とても大変。往復 1 時間 20 分位。頂上では、ワイキキが一望。高層ホテルなどが林立している。そして、すがすがしい。

一応、人数制限しているらしいが、頂上は、観光客でいっぱい。帰りは、来た道と違い螺旋階段を下りて、また、曲がりくねった道を下っていく。途中、上がってくる人が多く、狭い道ですれ違い。

下りてきて、さらに、出口を出て歩いて下りていく。そこに、ファーマーズマーケットが開かれているので、また、サラダやハンバーグなどを買って食事。

ワイキキまでは、今度は、乗り合いバスで移動、運賃は一人3ドル。泊まっているホテルの向かい側にバス停があるので便利。夕方まで時間があるので、昨日と同じスーパーで買い物。

### フラは神々に捧げる神聖な踊り

その後、ロイヤルハワイアンで無料のハワイアンダンス、フラが見られるというので、集合。フラダンスは、タヒチのダンスをベースにした観光客の向けのものである。フラは、神々に捧げる踊りである。

ステージには、3人の女性が上がった。二人は、太鼓のようなパフ、ヘチマのようなイプヘケなどを座って奏でる。踊りの伴奏である。もう一人は、若い女性で踊り手。しなやかに手と足を使って踊る。私たちが目にしているフラダンスとは全く違う。古典的な踊りのようだ。私たちが目にしているのは、現代的な踊りということだ。もともとは、男性だけが踊っていたが、今では、女性も踊れているという。

現代的なフラダンスと比べ古典的なフラは、力強さがあるように思う。神々に捧げる神聖な踊りということだからだろう。

そして、説明している女性ともう一人の踊り手（年配）がステージ外にいる。

ハワイは、1898年に王国が終わり、アメリカの準州になった。その後、ハワイの人々は自らの文化を隠していたが、1950年代以降、ハワイのルネッサンスが起こり、フラが復活したとのこと。

ワイキキの浜辺を歩いて、ホテルに戻る。今日は、私たちの30階の部屋で、ラストの食事会。それぞれ、食材を買い、持ち寄って食べる。キッチンで調理ができるので、比較的安い牛肉を買って、玉ねぎと炒める。焼肉のたれも売っている。そうしたものは、日本のメーカーのものだ。

持ち寄った食材で、ハワイの夜景を見ながら食事。明日は、帰路につく。

### 六日目、現地31日。

ホテルから、ホノルル空港まで、タ



ダイヤモンドヘッドから望む  
ワイキキ



青空に生えるダイヤモンドヘッド

クシーで1時間位。

11時35分に予定通り、離陸。日本へ。飛んでいる間はずっと昼なので、飛行機の窓は暗くしている。

日付変更線をまたぐと、日本時間、1月1日。成田に着いたのは、午後4時であった。

元旦の空いた電車に乗り、帰宅した。

(小林 秀治)



フラの踊り子



夕暮れのワイキキビーチ